

I 総論

4 環境マネジメントへの取組状況

環境・安全推進センター及び各室の主な業務 (5頁)

(2024年5月1日現在)

センターの所掌業務	各室の主な業務		
<ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメントに関すること 安全衛生・健康管理に関すること 毒劇物の管理に関すること 化学物質等の管理に関すること 危険物の管理に関すること 労働災害に関すること 放射線障害防止に関すること 核燃料物質の管理に関すること 	環境マネジメント推進室 (設備環境課)	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全及び安全衛生管理上の作業環境に関する企画、調査及び連絡調整に関すること 環境保全及び労働安全衛生上の作業環境に係る法にもとづく届出に関すること その他設備工事の実施及び管理、環境保全又は安全衛生管理上の作業環境に関すること 	
	労働安全衛生室	<ul style="list-style-type: none"> 各事業場の労働安全衛生委員会への対応 健康診断結果の就業判定及び指導 健康相談及び指導 産業衛生及び公衆衛生の普及及び啓発活動 	
	環境・安全推進室	(人事労務課)	<ul style="list-style-type: none"> 安全衛生管理に関する企画、調査及び連絡調整に関すること(設備環境課の所掌に属するものを除く) 環境・安全委員会に関すること 労働安全衛生に係る法にもとづく届出に関すること(設備環境課の所掌に属するものを除く) 職員の保健衛生及び安全保持に関すること 労働災害の補償に関すること 特定化学物質等の管理に関すること その他安全衛生管理に関すること
			(研究コンプライアンス推進室)

環境マネジメント体制における各委員会の所掌概要 (5頁)

(2024年5月1日現在)

委員会等名称	所掌事項概要
環境・安全委員会	<ol style="list-style-type: none"> 環境保全に関する事項 労働安全衛生法その他関係法令にもとづく実験室等の安全に関する事項 健康管理及び衛生管理に関する事項 放射性物質及び原子力等の安全に関する事項 遺伝子組換え実験の安全に関する事項 動物実験に関する事項 省エネルギー・省資源に関する事項 感染症対策に関する事項 研究用微生物を使用する実験の安全に関する事項 その他環境及び安全衛生に関する重要事項
環境マネジメント専門委員会	<ol style="list-style-type: none"> 環境保全に係る施策の企画・立案及び基本方針に関する事項 廃棄物(放射性物質を含む廃棄物を除く。)による大気汚染、水質汚濁、土壌汚染及び悪臭ならびに騒音及び振動の調査及び防止対策に関する事項 大学構成員に対する環境保全教育に関する事項 環境保全センターに関する重要事項 エネルギー使用の合理化、その他エネルギー管理に関する事項 環境報告書の作成に関する事項 その他環境マネジメントに関する事項

環境保全センターの主な業務

センターの目的	主な業務
<p>東北大学の教育研究活動に伴って生ずる有害物質を含む排水、廃油及び廃有機溶剤(放射性物質を含む廃棄物を除く。)を適正に処理し、及びその処理に関する技術開発等を行うとともに、化学原料化において2次公害となる物質の排出を抑制する技術を確立することにより、環境の保全に資することを目的とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 廃液処理(収集運搬含む)、廃液分析 排水分析 沢水分析 PCB分析 土壌調査 PRTR アスベスト調査

2 環境マインドを備えた人材の育成

2-1 環境関連の教育 (20頁)

2023年度学問論演習 環境関連テーマ

環境関連テーマ	受講者数	受講者所属
CO ₂ の性質とその有効利用	9	理1、医1、工4、農3
水と環境	4	医1、農3
地球上の生命と環境を支える植物：植物の独立栄養を科学する	9	理2、薬1、農6
ベントスとプランクトンから地球環境を理解する	9	理3、農6
生態学分野の課題に関するグループディスカッション	25	理8、工1、農16
水処理装置を作成して評価してみよう	3	農3

2023年度工学部創造工学研修 環境関連テーマ

創造工学研修テーマ・内容	受講者数
天然キレート剤を用いたCO ₂ の削減	3
環境浄化への挑戦－セシウムの捕獲を例に	2
花びらの色素を使った太陽電池を作ろう	2
バイオマスを変換する触媒をつくる	3
環境負荷低減型セメントで独楽（コマ）を作ろう	2

2023年度環境関連教育科目演習・実習等

実施部局	講義科目		演習・実習等科目	
	開講数	受講者数	科目名	受講者数
法学部	3 (1)	65	環境・コミュニケーション演習	7
法科大学院				
公共政策大学院				
経済学部・経済学研究科	2	21	演習Ⅰ、Ⅱ	14
			環境経済学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	15
			Seminar in Economics a, b	5
			Project Guidance in Econ a, Econ b	3
理学部・理学研究科	20	239	地圏環境科学実習Ⅱ	28
			地圏環境科学実習Ⅰ	32
			環境・地球科学実践演習Ⅰ	8
			環境・地球科学実践演習Ⅱ	5
			環境・地球科学特別実験Ⅰ	4
医学部・医学系研究科	2	106	—	—
農学部・農学研究科	15	1,318	生産フィールド実習	191
			農場実習	94
			復興・IT農学	76
			複合生態フィールド科学専門実習	20
			臨海実習	29
			農村調査実習	11
環境科学研究科	57	1,003	環境科学演習	30
			環境科学演習 Seminar on Environmental Studies	11
			先進社会環境学演習	6

2023年度環境関連教育科目演習・実習等（つづき）

実施部局	講義科目		演習・実習等科目	
	開講数	受講者数	科目名	受講者数
工学部・工学研究科	39	1,396	建築・社会環境工学演習	107
			社会環境工学実験	58
			水環境デザイン演習Ⅰ	21
			水環境デザイン演習Ⅱ	19
			水環境デザイン研修A	20
			水環境デザイン研修B	21
			水環境学特別研修	9
			環境資源化学セミナー	14
			水環境学セミナー	18
			環境設備実習	11
国際文化研究科	12	31	国際環境資源政策論特別演習A	6
			国際環境資源政策論特別演習B	3
			国際環境資源政策論特別研究A	6
			国際環境資源政策論特別研究B	4
			国際環境資源政策論総合演習A	2
			国際環境資源政策論総合演習B	3
生命科学研究科	3	256	—	—
全学教育科目	17 (2)	3,267	文科系のための自然科学総合実験	57

※ 休講・不開講の授業・講座等は表中の数値に含まないものとする。

※ () は今年度新たに開講した科目数(内数)を示す。

2023年度オンライン学習サービス「東北大学MOOC」コンテンツ（環境関連）

開講日	講座題目	講師
2024年1月17日～3月19日	放射線安全社会入門～リスクの知見を暮らしに	工学研究科 新堀 雄一 他
2023年6月7日～2024年3月29日	解明：オーロラの謎	理学研究科 小原 隆博
2023年6月7日～2024年3月29日	東日本大震災の教訓を活かした実践的防災学へのアプローチ	災害科学国際研究所 今村 文彦 他

2-2 国際的教育プログラム（22頁）

大学院ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラムの2023年度受講者数と取得可能な学位

研究科	2023年度受講者数	取得可能学位
医学系研究科	2 (1)	修士(医科学)
農学研究科	20 (3)	修士(農学)、博士(農学)
環境科学研究科	0 (0)	修士(環境科学)、修士(学術)、博士(環境科学)、博士(学術)

() は修了者数(内数)を示す。

大学院ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラムの延受講者数と国籍（2019～2023年度）

年度	延受講者数	国籍
2019	14	バングラデシュ、中国、インド、インドネシア、ナイジェリア、ベトナム
2020	15	中国、インドネシア、ナイジェリア、ベトナム
2021	12	中国、インドネシア、ナイジェリア、台湾、ベトナム
2022	12	中国、コンゴ、インドネシア、マレーシア、モザンビーク、フィリピン、台湾、ベトナム
2023	22	カメルーン、中国、コンゴ、インドネシア、モンゴル、モザンビーク、ネパール、フィリピン、台湾、アメリカ合衆国、タイ、ベトナム

II 各論

② 環境マインドを備えた人材の育成 ③ 環境関連研究の紹介

バイオインダストリー人材育成プログラムの延受講者数と国籍（2019～2023年度）

年度	延受講者数	国籍
2019	129 (-)	日本、バングラデシュ、ポリビア、中国、インドネシア、ナイジェリア、台湾、タンザニア、トルコ
2020	118 (1)	日本、中国、エジプト、グアテマラ、インドネシア、台湾
2021	133 (0)	日本、アルジェリア、バングラデシュ、中国、インドネシア、韓国、スリランカ
2022	155 (0)	日本、バングラデシュ、中国、エチオピア、インド、インドネシア、ナイジェリア、アメリカ合衆国、トルコ
2023	134 (2)	日本、カナダ、中国、韓国、マレーシア、ナイジェリア、スウェーデン、台湾

()は修了者数(内数)を示す。

グローバルガバナンスと持続可能な開発プログラムの延受講者数と国籍（2019～2023年度）

年度	延受講者数	国籍
2019	4 (-)	日本、中国、韓国
2020	15 (2)	日本、ブラジル、カメルーン、中国、コロンビア、韓国、マダガスカル、モンゴル、モザンビーク、タイ、トルコ
2021	14 (5)	ブラジル、カメルーン、中国、コロンビア、韓国、ペルー、タイ、トルコ
2022	17 (3)	ブラジル、カメルーン、中国、インドネシア、韓国、ペルー、アメリカ合衆国、トルコ
2023	21 (8)	ブラジル、中国、インドネシア、韓国、アメリカ合衆国、トルコ

()は修了者数(内数)を示す。修了時には学位の他にG2SDプログラム修了証も授与される。

国際環境セキュリティリーダー育成プログラムの延入学数と国籍（2022～2023年度）

年度	延受講者数	国籍
2022	51 (11)	アフガニスタン、バングラデシュ、中国、エクアドル、エルサルバドル、インド、インドネシア、イラン、イタリア、マレーシア、モンゴル、ロシア、スリランカ、タイ、フィリピン、アメリカ合衆国、ベトナム
2023	48 (11)	アフガニスタン、バングラデシュ、中国、エクアドル、ドイツ、インド、インドネシア、イラン、イタリア、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ナイジェリア、フィリピン、ロシア、スリランカ、アメリカ合衆国、タイ、ベトナム

()は修了者数(内数)を示す。2022年度は前身の国際環境リーダー育成プログラム(IIEP)の修了者数(内数)を示す。

③ 環境関連研究の紹介

科学研究費助成事業における環境関連研究件数（25頁）

研究種目	2023年度（最終年度）研究成果報告書件数	環境関連研究課題件数(%) ^{※1}
基盤研究(S・A・B・C)	384	46 (12.0%)
若手研究	169	17 (10.1%)
挑戦的研究(開拓・萌芽)	98	20 (20.4%)
研究活動スタート支援	39	5 (12.8%)
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化等)	18	5 (27.8%)
奨励研究	12	3 (25.0%)
新学術領域研究(研究領域提案型)	6	0 (0.0%)
学術変革領域研究(B)	5	0 (0.0%)
合計	731	96 (13.1%)

※1 環境関連研究課題件数については、研究課題及び研究成果(概要)の中に、「環境報告書2024」表II-12の「関連する環境問題等」のキーワード等を含んでいるものの件数を合計。

4 環境コミュニケーションの推進

4-2 環境情報の社会との連帯と共有活動 (32頁)

環境に関する各種公開講座の実施状況 (2023年度)

区分	実施部局	講座の名称	回数	延受講者数
みやぎ県民大学	環境科学研究科	科学の目で見える環境とリサイクル	4	24
	金属材料研究所	持続可能な未来社会を創る材料の科学と技術	5	168
	多元物質科学研究所	ナノ材料の不思議と魅力	6	108
学都仙台コンソーシアム (サテライトキャンパス 公開講座)	環境科学研究科	地球環境史とエネルギーから読み解くSDGs	1	24
	環境科学研究科	カーボンニュートラルと再生可能エネルギー in 仙台	1	46
公開講座・開放講座	工学研究科	水環境学 (沿岸域と気候変動)	1	1
	農学研究科附属複合生態 フィールド教育研究センター	食と環境のつながりを学ぶ「フィールド環境学」	2	40
	農学研究科附属複合生態 フィールド教育研究センター	フィールドで日本の食と環境を学ぶ「海外留学生共修」	2	56
	農学研究科附属複合生態 フィールド教育研究センター	公開講座とフィールドセンターツアー「Open Farm 2023」	1	62
	農学研究科附属複合生態 フィールド教育研究センター	2023年度PICS オンライン市民講座 「陸と海のバイオマス資源を活用してCO ₂ 削減に貢献する！」	1	58
	学術資源研究公開センター等	片平キャンパス・樹木ツアー (春・秋)	2	40
	学術資源研究公開センター、 植物園	緑化フェアイベント【天然記念物「青葉山」の自然と歴史】 (於：仙臺緑彩館)	1	35
	学術資源研究公開センター、 植物園	緑化フェアイベント「ウォーキングツアー」 (午前・午後：緑彩館～植物園)	2	41
文学研究科、植物園	紅葉の賀 (植物園ガイドツアー 41名含む)	1	241	
出前授業	経済学研究科	東北大学出前講座 「経済学はどのように役に立つのだろうー気候変動の影響の経済分析ー」(秋田県立秋田高等学校)	2	161
	工学研究科	環境学習 (鹿児島県西之表市下西小学校4年生・6年生)	2	31
	工学研究科	理科共同実験講座「サイエンス・コ・ラボ」 持続可能なものづくり～未利用資源を燃料や食品に (仙台育英学園高校)	1	22
	国際文化研究科	持続可能性と資源循環をテーマとしたSDGs出前授業 (東松島市立矢本西小学校、矢本東小学校、赤井小学校、大曲 小学校、大塩小学校、成瀬桜華小学校、宮野森小学校の4年生 対象)	7	283
	生命科学研究科	東北大学特別出前講義	43	1,899

延受講者数は、対面形式、Web形式、もしくは両方の合計の人数とする。

せんだい環境学習館「たまきさんサロン」*1 本学教員によるサロン講座の開講状況 (2023年度)

開催月日	講座題目	講師
1 6月3日(土)	廃泥土のリサイクル～お花を植える土に変えよう～	環境科学研究科 高橋 弘
2 8月6日(日)	プラスチックとのつきあいかた～マイクロプラで万華鏡づくり～	環境科学研究科 松八重和代 三橋 正枝
3 3月31日(日)	地層・化石から読み解く 仙台的大地の歴史	東北大学総合学術博物館 高嶋 礼詩

*1 東北大学環境科学研究科本館に併設された仙台市による環境学習施設。大学の施設に自治体のオフィスが入り、大学と自治体との連携のシンボルとなっている。

東北大学サイエンスキャンパスにおける体験型科学教室の実施状況（環境をテーマにしたもの）（2023年度）

開催月日	タイトル	概要	対象及び参加者数
5月13日（土）	コンピューター分解教室 ～科学とECOをつなげよう～ (協力:株式会社仙台村田製作所)	ドライバーやペンチを使ってパソコンの分解を行い、それぞれの部品を金属や電子基板、プラスチック等に分別することを通じて、分別するのとどのようなものに生まれ変わるのか、再度資源として利用することの大切さを学んだ。	小学4年生～6年生 32名
6月10日（土）	クルマ作りのすべてを学ぼう 「NISSANまるごと体験」 (協力:日産自動車株式会社)	「わくわくエコスクール」パートにおいて、まず、温暖化の原因の一つとなっているCO ₂ のことに触れ、車を使った生活水準を維持しながら、環境に優しい車を開発していく必要性について学んだ。次に、環境に優しい技術を使った車の一例である電気自動車の実験を行った。	小学4年生～6年生 30名
8月26日（土）	スマートフォン分解教室 (協力:KDDI株式会社)	スマートフォンを丁寧に手で分解し、材質や働きごとに仕分けをしながら、内部のレイアウトや構成する部品を確認した。また、実際に不要となったスマートフォンは同じように工場ですべて手分解で処理され、貴金属・鉄・プラスチックとしての再利用が進められていることを学んだ。	小学5年生～ 中学1年生 15名
12月16日（土）	DIC 理科実験授業 ～くらしに役立っている化学の力 その機能や役割を実験や観察で調べてみよう～ (協力:DIC株式会社)	くらしや社会を彩り、豊かで快適にしている身近な化学を観察や実験を通して学んだ。内側にプラスチック薄膜が貼られた食品包装の紙器は紙へのリサイクルが妨げられるが、実験により、紙器内面コーティング剤 ^{※1} を使用すると、紙としてのリサイクルが可能になることを確かめた。	小学5年生～6年生 38名
2月17日（土）	サンケン子ども工作教室 「LED『ペットボトル@』を作ろう」 (協力:サンケン電気株式会社)	身近にできる省エネとして、消費電力が少なくて済むLEDの利用について学習した後、オリジナルの「ペットボトル@」を製作した。ペットボトルの中にランタン、ソーラーパネルをセットし、単三型のバッテリーを接続して完成させた。	小学4年生～6年生 24名

※1 DIC株式会社「ハイドレクト」。クラフト用紙に均一に塗布し乾かすと、その表面は水や油をはじき染み込ませない。使用済みのものをリサイクルする際は水酸化ナトリウム液で溶解するため、紙にも再生できる。



コンピューター分解教室の様子



「NISSANまるごと体験」
手回し発電機を用いたモデルカーの走行実験の様子

オープンキャンパス（対面方式）で紹介した環境関連テーマ（2023年度）

実施部局	開催形式	講義・授業テーマ
工学研究科	公開講座	・明日のエネルギー源「水素」を撮るー燃料電池の初歩から最先端研究までー水素を安全に操り電気エネルギーを生み出す、「燃料電池」について講義する。
	体験・見学コース	・100%植物由来の口紅を作る
	特別企画	・CLTモデル施設実証棟見学会 環境にやさしい木材で都市の建築を実現する構造として注目されているCLT（Cross Laminated Timber：直交集成板）という材料で建築されたモデル施設を体験する。
環境科学研究科	公開講座	・GIS（地理情報システム）でいろいろな空間情報を可視化してみよう 誰でも無料で使用できるQGISというアプリケーションとオープンデータを利用してGISの使い方やデータの作り方を体験する
	研究内容展示	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代への持続可能なライフスタイルのための機能性非金属軽元素材料の開発 ・環境や生命に調和する材料デザインを求めて ・環境保全と持続可能な社会を実現するためのバイオテクノロジー ・地球内部プロセスの理解と調和的な有効利用～地熱・鉱床・地震・CO₂固定～ ・環境調和型開発システムの構築 ・地殻環境・エネルギー技術の新たな扉を開く～キーワード：地熱・地圧・地震～ ・資源とCO₂の循環をより効率的に。同時に環境浄化も！ ・環境調和型エネルギー変換システムの実現に向けて ・STOP温暖化！守ろう僕らの地球！～地球温暖化の影響と、CO₂削減の方法～ ・環境との共生・エネルギーの創製を担うナノ機能素材開発 ・都市の脱炭素化 ・ライフサイクル視点から真に持続可能な資源循環を目指す ・環境保全に貢献する粉体工学の創成 ・Geo（地球）+Mechanics（力学）による地球温暖化ガスを削減するためのエネルギーと新技術の開発 ・人類の未来を切り拓く、エネルギー材料・低環境負荷材料を創ります！ ・機能材料の創製と熱物性計測法の開発 ・資源・物質循環型社会に貢献する機能性材料の創製と応用 ・持続可能な資源循環システムを目指した研究の紹介 ・大気中のオゾン等微量成分の変動を探る ・省エネ装置でカーボンニュートラルの未来へ ・捨てられる下水から価値を生み出す ・研究室で大学の先生・先輩とじかに話してみよう ・光る分子のデザインー物質の超高感度分析を目指して ・最新化学技術で未来社会をデザインしよう ・航空用繊維強化プラスチックの強さとその秘密
農学研究科	模擬講義	・ヒトは野生生物と共存できますか？ 駆除への選好から環境経済学を読み解こう 人と動物がどう共生していけるのか、農業等の産業と自然環境がどう共存するのか、お互いが折り合える社会を、環境評価という観点からひもとき考えることが、環境問題の改善や環境保全へとつながる。

行政支援～本学関係者が参画した環境関連の主な行政機関 委員会一覧（2023年度）～

委員会名	主催企画団体	役割
国土審議会	国土交通省	専門委員
関東東北地方鉱山保安協議会	経済産業省	委員
中央環境審議会総合政策部会風力発電に係る環境影響評価制度の在り方に関する小委員会	環境省	委員
令和5年度災害廃棄物対策推進検討会	環境省	委員
令和5年度災害廃棄物処理計画策定事業費補助金審査委員会	環境省	委員
令和5年度自動車リサイクルにおける再生材利用拡大に向けた産官学連携推進事業審査委員会	環境省	委員
宇宙航空科学技術推進委託費審査評価会	文部科学省	委員
科学研究費助成事業における評価に関する委員会	文部科学省	評価者
最上川水系流域委員会	国土交通省 東北地方整備局	委員
鳴瀬川水系河川整備学識者懇談会	国土交通省 東北地方整備局	委員
阿武隈川水系河川整備委員会	国土交通省 東北地方整備局	委員
東北圏広域地方計画策定に関する有識者懇談会	国土交通省 東北地方整備局	委員
チヨウセンキバナアツモリソウ保護増殖事業検討委員会	環境省 東北地方環境事務所	委員
新技術活用評価会議	国土交通省 東北地方整備局	委員

II 各論

④ 環境コミュニケーションの推進

I 総論

II 各論 ④ 環境コミュニケーションの推進

委員会名	主催企画団体	役割
東北地方整備局総合評価委員会及び専門部会	国土交通省 東北地方整備局	委員
東北復興DX・i-Construction連絡調整会議	国土交通省 東北地方整備局	会員
宮城県環境審議会	宮城県	委員
宮城県環境影響評価技術審査会	宮城県	委員
宮城県自然環境保全審議会	宮城県	委員
宮城県都市計画審議会	宮城県	委員
宮城県地方港湾審議会	宮城県	委員
宮城県防災会議（地震対策等専門部会）	宮城県	専門委員
宮城県再生可能エネルギー等・省エネルギー促進審議会	宮城県	委員
宮城県再生可能エネルギー税制研究会	宮城県	構成員
みやぎ二酸化炭素排出削減支援事業の申請案件審査	宮城県	委員
宮城県社会教育委員の会議	宮城県	委員
第13次宮城県生涯学習審議会	宮城県	委員
女川原子力発電所環境保全監視協議会	宮城県	委員
女川原子力発電所環境調査測定技術会	宮城県	委員
村田町竹の内地区産業廃棄物最終処分場生活環境影響調査評価委員会	宮城県	委員
青森県環境影響評価審査会	青森県	委員
青森県原子力政策懇話会	青森県	委員
福島県原子力発電所の廃炉に関する安全監視協議会	福島県	専門委員
福島県環境影響評価審査会	福島県	専門委員
石川県令和6年能登半島地震復旧・復興アドバイザーボード	石川県	委員
仙台市環境審議会	仙台市	委員
仙台市環境影響評価審査会	仙台市	委員
「仙台市環境行動計画」に基づく監査委員会	仙台市	外部監査委員
仙台市都市計画審議会	仙台市	委員
仙台市景観総合審議会	仙台市	委員
杜の都の環境をつくる審議会	仙台市	委員
仙台城跡調査・整備委員会	仙台市	委員
仙台市廃棄物対策審議会	仙台市	委員
仙台市廃棄物処理施設設置等調整委員会	仙台市	委員
仙台市大規模小売店舗立地法専門委員会	仙台市	委員
蒲生北部地区市有地利活用事業者選定委員会	仙台市	評価者
今泉工場建替検討委員会	仙台市	委員
栗原市環境審議会	栗原市	会長
大崎市ラムサール条約湿地保全活用委員会	大崎市	委員
バイオマス産業都市構想検討委員会	大崎市	委員
塩竈市都市計画審議会	塩竈市	委員
塩竈市文化財保護審議会	塩竈市	委員
石巻市ニホンジカ等処分方法検討懇談会	石巻市	委員
岩沼市環境審議会	岩沼市	委員
亘理町環境審議会	亘理町	委員
福島市環境審議会	福島市	委員
四日市コンビナートカーボンニュートラル化推進委員会	四日市市	委員

環境NPO活動等（2023年度）

部局	内容	研究者及び役割 (主催/共催/オブザーバー等)
農学研究科	公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (Miyagi Environmental Life Outreach Network: MELON)の活動	冬木 勝仁 (副理事長)
災害科学国際研究所	北の里浜花のかけはしネットワーク、荒浜地区にて親子を対象とした「海辺の環境フィールドワーク」にて生物観察の補助	内田 典子 (オブザーバー)

環境に関する各種シンポジウム及び講演会の実施状況（2023年度）

実施部局・関係団体	講演会・シンポジウムタイトル/テーマ	概要	来訪者数
工学研究科	第12回電力エネルギー未来技術シンポジウム	学術的研究の場と電力産業との関わり方の接点として、「電力の安定供給と電気事業脱炭素化の両立に向けた技術開発」をテーマとし、4つの講演を含むシンポジウムを開催した。	207
国際文化研究科	台風とハリケーン —その現状と将来予測—	台風やハリケーン等の災害をもたらすことが多い大気現象についてご講演いただいた (MS&AD インターリスク総研株式会社顧問 関田康雄氏)。	61
国際文化研究科	職業訓練を通じた貧困への取り組み	職業訓練を通じて、ミャンマーの貧困問題の解決や格差是正についてご講演いただいた (一般社団法人サステナブリッジ代表理事 森晶子氏)。	50
国際文化研究科	GX推進法は日本の救世主となれるのか?	気候危機に対する世界の取組と日本の課題についてご講演いただいた (国連環境計画・金融イニシアチブ特別顧問 末吉竹二郎氏)。	65
国際文化研究科	Sustainable Energy Development : Overcoming Energy Poverty	モンゴルの遊牧民のエネルギー問題について、モンゴル国立大学のTurmandakh Bat-Orgil准教授をお迎えし、エネルギー貧困の克服に向けたバッテリーの活用について討論した。	40
国際文化研究科	災害安全とSDGs教育の視点からみた持続可能な街づくり	高麗大学と韓国大邱慶北科学技術院の先生による講演が行われ、本学の災害科学・安全学国際共同大学院プログラム (環境報告書2024 23頁参照) 所属の学生が進めている研究 (SDGs教育の現状と課題、及び地方都市の持続可能性と教育に関する研究) の成果が発表された。	20
農学研究科	有機米生産システム国際シンポジウム	欧米アジアからの参加者とともにさまざまな有機米生産システムについて議論した。①今日の有機米生産システムに関する実践知を収集、②イノベーションの発掘や阻害要因の特定、③品質や健康、環境への影響の評価、④有機米生産に関する国際的なイノベーションネットワークの構築、⑤有機農業のスケール転換への貢献を目的としている。	120
環境科学研究科	東北大学エネルギーシンポジウム 「東北大学が描くGX —エネルギー価値学が導く持続可能な未来への成長戦略—」	地域や民間から始まる脱炭素・水素利活用による強靱な社会の実現、環境と経済の好循環の実現について、講演 (タイトル「気候変動による災害リスクと蓄電池システムの便益: 停電回避の社会的便益はいくらか?」) 等を通して考える。	80
金属材料研究所	先端エネルギー材料理工共創研究センター (E-IMR) 2023年度ワークショップ	脱炭素社会の実現、2050カーボンニュートラルの達成に向けたエネルギー材料の先端的な研究、及び「太陽エネルギーと3つの『蓄』の最大化に貢献するエネルギー材料研究」プロジェクトに関する各種の講演・研究発表を行った。	55
グリーン未来創造機構	東北大学グリーン未来創造機構シンポジウム vol.2	グリーンクロステック研究センターの活動紹介を中心とした講演及び本学共創研究所等のポスターセッションを行うとともに、企業サロン (名刺交換会) も開催した。	100

来訪者数は、対面形式、Web形式、もしくは両方の合計の人数とする。